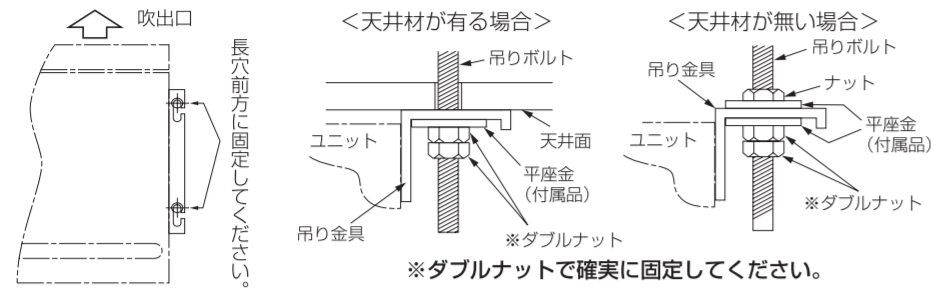
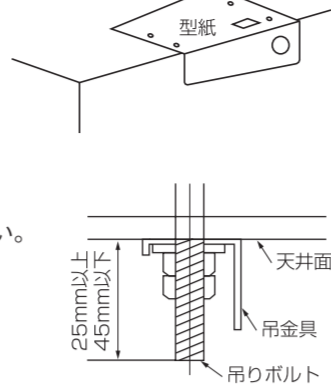




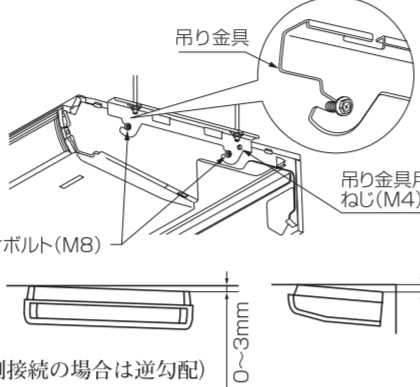
#### ④室内ユニットの据付け

##### 作業手順

- 吊りボルト位置、配管位置を選定してください。  
(1) 付属の型紙を目安として、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。  
※注意：位置決定は、実測により行ってください。  
(2) 位置決定後、型紙は取り外してください。
- 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
- 吊りボルトは4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
- 吊りボルト長さは右図の寸法を厳守ください。
- 吊り金具を吊りボルトに固定してください。



- ユニットを金具に据付けてください。(右図参照)  
(1) 吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。  
(2) 取付ボルト (M8) を左右4箇所確実に締め付けてください。  
(3) ねじ (M4) を左右2箇所締め付けてください。  
△警告：サイドパネルは前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。  
ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。



※ドレン水を流れやすくするためにユニットを排水側を下り勾配を設け、据付けてください。  
△注意：逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

#### ⑤冷媒配管

##### 冷媒配管時の注意事項

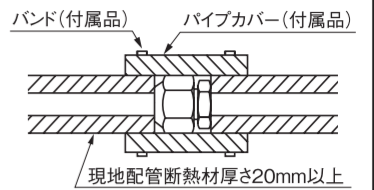
- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。  
冷媒R22で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点に注意してください。  
・フレアナットは製品に付属されているもの (JIS第2種) に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。  
・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金無縫管 (C1220T、JISH3300) をご使用ください。  
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。  
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。  
R410A以外 (R22等) の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。  
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

#### ⑤冷媒配管の続き

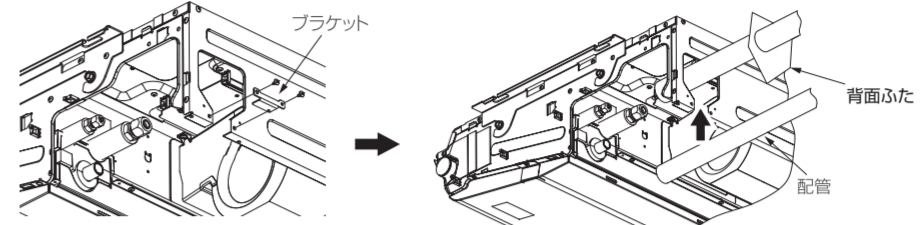
##### 作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。  
(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)  
●フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)  
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
・後ろ・上取り出しの場合は、配管は①の電気配線と一緒に、付属のふたを通して取り付けてください。  
・埃などが混入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。  
※配管の曲げはできるだけ大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。  
また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで右表の締付力で締めてください。

パイプ径	締付力 N・m
φ6.35	14~18
φ9.52	34~42
φ12.7	49~61
φ15.88	68~82
φ19.05	100~120



- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締付けてください。  
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。



配管取り出しは、後、右、上の3方向より行えます。  
後ろ配管の場合、ブラケットを取り外すと作業が容易になります。  
※配管作業終了後、ブラケットを元通り取り付けてください。

#### ⑥ドレン配管

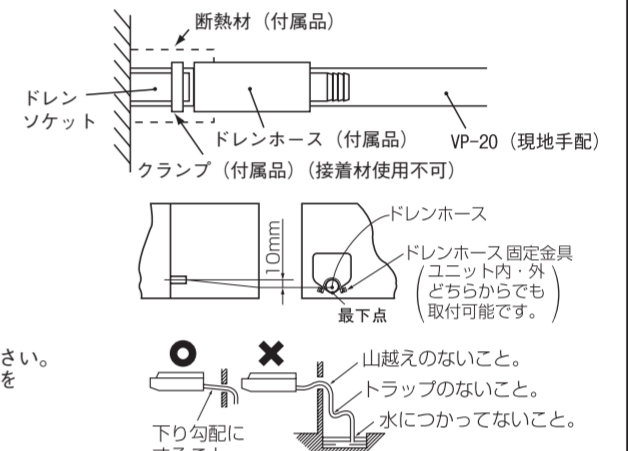
- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

##### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。  
試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

##### 作業手順

- 付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)  
※ドレン配管を左側に行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材 (筒状) を右側接続口に付け替えてください。  
△注意：ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。
- ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。  
※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように10mmの勾配をつけてください。  
●電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。  
△注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。  
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。
- ドレンホースにVP-20 (現地手配) を接続してください。  
(接着剤使用不可)  
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-20を使用してください。  
4. ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。  
●エア抜きは絶対に設けないでください。  
●ドレン配管の断熱施工を行ってください。  
●ドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。  
●高湿度の環境で使用する場合、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。



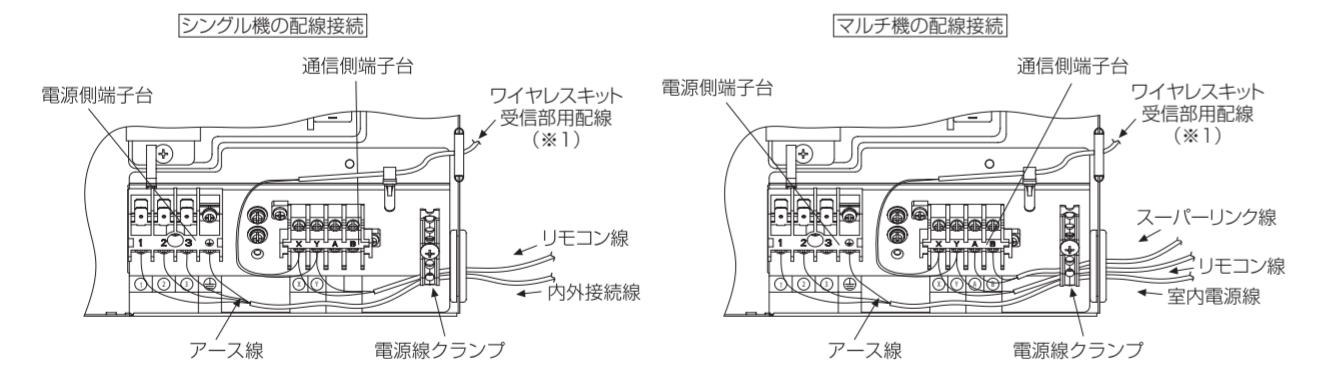
#### ⑥ドレン配管の続き

##### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

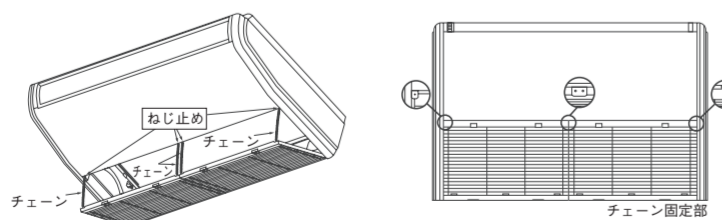
#### ⑦電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- D種設置工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。 ※1工場出荷時、端子台X、Y (現地接続側) には、ワイヤレスキット (オプション) 受信部用配線が接続されています。  
ワイヤードリモコン接続時は外す必要はありません。  
ワイヤードリモコン/ワイヤレスを併用する場合はリモコンの親子設定が必要となります。



#### ⑧吸込みグリルの固定

- 電気配線工事完了後、吸込みグリルを固定してください。
- 1. 吸込みグリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取り付け、吸込みグリルを閉じてください。

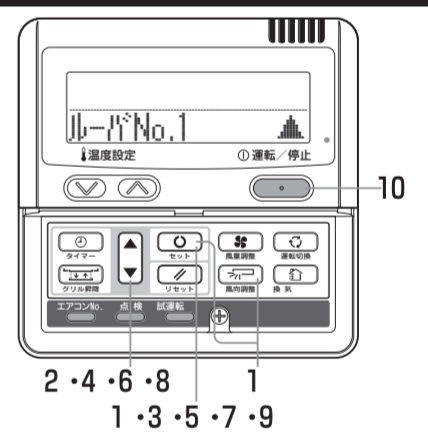


#### ⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

#### ⑩風向設定のしかた

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を、変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは、設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。



- 「セット」ボタン [風向調整] ボタンを同時に3秒以上押し  
リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合、下記の表示がでます。  
その後、4項へお進みください  
[データ確認中] → 「ルーバNo.1 ▲」  
リモコンに接続されている室内ユニットが複数の場合、下記の表示がでます。  
風向設定をする室内ユニットを選択します。2項へお進みください。  
[室内機選択] → 「内 000 ▲」
- ▲ または ▼ ボタンを押す  
風向設定する室内ユニットを選択してください。  
[例] 「内 000 ▲」 → 「内 001 ◆」 → 「内 002 ◆」 → 「内 003 ◆」
- 「セット」ボタンを押す  
選択した室内ユニットが確定します。  
[例] 「内 001」 → 「データ確認中」 → 「ルーバNo.1 ▲」
- ▲ または ▼ ボタンを押す  
設定するルーバ番号を選択してください。  
[例] 「ルーバNo.1 ▲」 → 「ルーバNo.2 ◆」 → 「ルーバNo.3 ◆」 → 「ルーバNo.4 ▼」  
※注意：「ルーバNo.1 ▲」を選んでください。その他ルーバNo.を設定しても無効となります。
- 「セット」ボタンを押す  
ルーバ動作範囲の上限位置を選択します。  
[例] 「No.1 上位置 2 ◆」 ← 現在の上限位置を表示します。
- ▲ または ▼ ボタンを押す  
ルーバの上限位置を選択します。  
位置1が最も水平で、位置6が最も下向きとなります。  
[位置-] は、出荷時の位置に戻すための番号です。  
出荷時状態に戻す場合は、「位置-」を選択してください。  
[例] 「No.1 上位置 1 ▼」 → 「No.1 上位置 2 ◆」 → 「No.1 上位置 3 ◆」 → 「No.1 上位置 4 ◆」 → 「No.1 上位置 5 ◆」 → 「No.1 上位置 6 ◆」 → 「No.1 上位置-▲」
- 「セット」ボタンを押す  
上限位置が確定し、設定位置を2秒間表示します。その後、下限位置選択表示となります。  
[例] 「No.1 上 2」 ← 確定内容を2秒間表示  
↓  
「No.1 下位置 5 ◆」 ← 現在の下限位置を表示します。
- ▲ または ▼ ボタンを押す  
ルーバの下限位置を選択します。  
[位置 1] が最も水平で、「位置 6」が最も下向きとなります。  
[位置-] は、出荷時の位置に戻すための番号です。  
出荷時状態に戻す場合は、「位置-」を選択してください。  
[例] 「No.1 下位置 1 ▼」 → 「No.1 下位置 2 ◆」 → 「No.1 下位置 3 ◆」 → 「No.1 下位置 4 ◆」 → 「No.1 下位置 5 ◆」 → 「No.1 下位置 6 ◆」 → 「No.1 下位置-▲」
- 「セット」ボタンを押す  
上限位置、下限位置が確定し、設定位置を2秒間点灯し、設定完了となります。  
設定完了後、設定したルーバNo.のルーバが、停止位置から下限位置まで移動し、その後停止位置に戻ります。  
(但し、リモコンが停止モードであっても、ファン残留運転などで、室内ユニットが運転している場合は、本動作はしません。)  
[例] 「No.1 上 2 下 6」 ← 確定内容を2秒間表示  
↓  
「設定完了」  
↓  
「ルーバNo.1 ▲」 ← 選択したルーバNo.表示へ戻る。
- 「運転/停止」ボタンを押す  
風向設定モードを終了し、元の表示に戻ります。  
\* ご注意 上限値と下限値を同じ位置に設定すると、ルーバはその位置で固定され、オートスイングをしても動きません。  
・設定の途中で、「[リセット]」スイッチを押すと、1回前の表示に戻ります。また、設定の途中で、「運転/停止」スイッチを押すと、本モードを終了し元の表示に戻ります。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。  
・リモコンが親子接続されている場合、子リモコンでは、風向設定操作はできません。

